

CHICHIBU MEISEN

織られ続ける伝統 秩父銘仙の魅力

秩父市

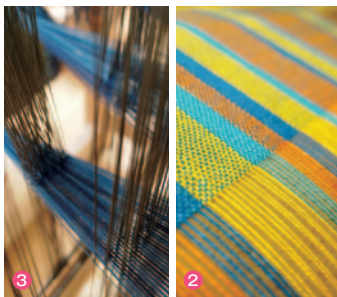
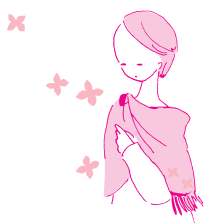
秩父銘仙

秩父銘仙とは秩父地方で伝統的に製造されている平織の絹織物。先に糸を染めてから織るといふ「ほぐし捺染」という独自の技術を使った、鮮やかでとても斬新な柄が特徴的。大正から昭和にかけて女学生やおしゃれの先端を行く女性たちの間で大流行した。裏表がないので、表地が色あせても裏地で仕立て直せるリバーシブルな構造。価格もリーズナブルで、ファッション性も高く、とても丈夫。秩父銘仙は女性の手軽なおしゃれ着として愛されてきた。

昨年、国の伝統的工芸品に指定さ

れ、今再び注目を集めている。

今回訪れた寺内織物さんは1914年創業で、現代に秩父銘仙の技術を伝える機屋さん。工場では昭和11年当時の貴重な織り機が現役で稼働している。今は家族で経営されているが、最盛期には多くの女工さんが住み込みで働いていたそう。週に1度織物教室を開いており、生徒さん用の手織機も置いてある。昔から着物地や座布団、布団地などが織られていたが、最近ではもっと身近なストールやネクタイ、のれん等も作製。工場向かいのショップにて販売もしている。



1. 整経機。何本かの糸を束ね、よりをかける。2・3. 織物教室の生徒さんによるもの。生徒さんは自由に自分だけの作品を作る事ができる。4. 昭和11年に国に登録された機織り機が現役で稼働している。5. 色とりどりの絹糸。6. サラッとした肌触りの良いストール。丸い部分には貴重な天蚕の糸が使われている。



1935年頃から働いている織り機。まだまだ現役!

使うたびに味が出る
使うたびにわたしになじむ



見学する?

工場内を見学することができます。
日時: 10:00~16:00(不定休)
定員: 20人まで(小学生以上)
※1週間前までに予約が必要です。
詳しくはお問い合わせください。



寺内織物株式会社
秩父市道生町7-1 ☎0494-22-0605
営業10:00~16:00 休 不定休